

お元気ですか ④

ヘモグロビン3題

由岐病院内科 本 田 壮 一

【著者略歴】

本田壮一（ほんだ そういち）
 由岐病院院長・阿部診療所所長（兼任）
 1958年7月、美波町田井の生まれ。富岡西高、徳島大学医学部卒業。徳島大学病院内科、関連病院勤務後、2005年4月より、現職。

医療・福祉分野での用語には、患者さんやその家族にわかりにくい外来語（英語・ドイツ語など）・略語・画数の多い漢字の入った専門用語がたくさんあります。また、説明しようとする、さらに難しい専門用語を使って人間の身体のしくみから説明しなくてはならないことばや、一般の人になじみのある語彙を使って言い換えると、誤解を生じてしまうことばもあります。

難解な医学用語を使わなければならないとき、手書きのメモや図を活用したり、言い換えたりしています（表）。必要度が高いのに難しい用語として、「HbA1c」「予後」「ステロイド」などがあげられています。今回は、ヘモグロビンについて解説します。ヘモグロビンが出てくる用語が3個あり、それぞれについて述べます。

○ヘモグロビン (Hb)

血液の赤い色のもと。ヘモグロビンは赤血球の中に大量にあるタンパクで、体のすみずみまで酸素を運搬する役割を担っています。鉄を含むタンパク質（図）で、少ないと貧血・出血、多いと多血症という病気と診断されます。正常値：男性は13～18g/dl、女性は11～16g/dl。

○ヘモグロビンA1c (HbA1c)

高血糖状態が長期間続くと、血管内の余分なブドウ糖は体内のタンパク質と結合します。この際、赤血球のタンパクであるヘモグロビン(Hb)とブドウ糖が結合したものがグリコヘモグロビンです。このグリコヘモグロビンには数種類あり、糖尿病と密接な関係があるものが、HbA1c（ヘモグロビン・エイワンシーと読みます）です。

赤血球の寿命は、およそ120日（4か月）です。赤血球は、この間ずっと体内をめぐって、血管内のブドウ糖と少しずつ結びつきます。高血糖、すなわち余っている糖が多ければ多いほど、結びつきが増えHbA1cも多くなります。したがって血液中のHbA1c値は、赤血球の寿命の半分くらいにあたる時期の血糖値の平均を反映します。病院の外来で血液検査をすると、その日から1～2か月前の血糖の状態を推定できることとなります。「平均血糖値」と言い換えてよいかもしれません。

正常値：4.3～5.8%で、6.5%以上であれば、ほぼ糖尿病と判断されます。また、糖尿病患者さんの治療の目標は、6.5%未満です。

○便ヘモグロビン

消化管から大量の出血があると、便は「タール便」といって真っ黒になり、一見して出血とわかります。しかし、わずかな出血の場合は、便を見ただけでは判別できません。このわずかな出血を検出して食道・胃・小腸・大腸などの消化管のがんや潰瘍を発見するのに簡単に役立つ検査が「便潜血」です。現在は、ヒトのヘモグロビンだけに反応する検査を行っており、「便ヘモグロビン」と称しています。肉食後も、陽性になりません。

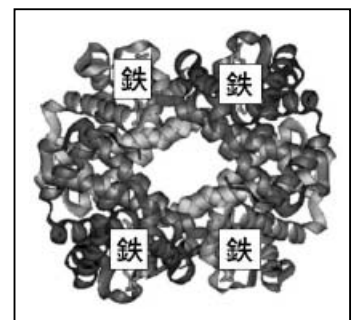
陽性の場合、痔核や大腸ポリープの場合も多く、すぐに大腸がんを心配しなくてもよいですが、もう一度、便潜血検査を行うのではなく、病院で精密検査（大腸ファイバー検査など）を受けることが勧められます。正常は、（-）：陰性です。

以上、少しでもヘモグロビンの意味の理解が進めば幸いです。

表：難しいことばの言い換え（例）

セカンド・オピニオン	他の医師の意見を聞いて、どんな診療を受けるか考える参考のこと。
ウイルス	薬ではなかなか退治できない「ばい菌」。
抗生剤	細菌を退治する薬。
ヘモグロビン	?（本文参照）

図：ヘモグロビン



ご意見・ご感想を歓迎します。

〈由岐病院 FAX：0884(78)0533〉